

これまでに発行された全国のマンホールカード（一部）＝GKP提供



マンホールカード列島縦断

ご当地絵柄が人気、高値取引も

「ご当地ならではの名所や名物が描かれたマンホールのふたを図柄にした「マンホールカード」の発行が広がっている。業界団体の仕掛けで昨年4月に発行が始まり、1年で145自治体が170種類に。累計発行数は約60万枚に達する勢い。現地では手に入らないという希少さもあって、ブームは過熱気味だ。

3日、カードの第4弾が全国で一斉に発行された。「これほど盛り上がりつつあるとは知らなかった」と話すのは、恐竜の化石が多数出土することでも知られる福井県勝山市の上下水道課。肉食恐竜をデザインしたマンホールふたのカードで第4弾に参入した。「カードの発行で勝山市に足を運ぶ人がさらに増えるのでは」と期待を込める。

発行の仕掛け人は、国土交通省や下水道関連団体でつくる「下水道広報プラットホーム」(GKP、東京)の山田秀人さん。「汚い、くさい、見えにくい」という下水道のイメージ

を払拭したかった。ご当地ふたを名刺大のカードにすることで、下水道処理に親しみを持ってもらおうと企画した。

第1弾として昨年4月、大阪市や堺市、神戸市、東京23区など28の自治体・地域が30種類を発行。昨年8月に第2弾、同12月に第3弾と続いた。世界遺産の姫路城(兵庫県姫路市)や宇宙船(茨城県つくば市)、広島東洋カープ(広島市)、マンガ「名探偵コナン」(鳥取県北栄町)――。第4弾には42自治体の50種類が加わった。

各地の役所や下水道事務所などで先着順で配布する。在庫切れしたカードの中にはネットオークションで2万円の高値が付いたものも。カードは縦8・8センチ、横6・3センチ。表面にマンホールのふたの写真と設置位置を示す座標データ、裏面にデザイン

(大脇和明)

A74084